



平成29年3月1日発行
発行所
滋賀県立彦根東高等学校
金 亀 会
滋賀県彦根市金亀町4-7
TEL & FAX0749-23-0888

印刷所
(株)ビコハン
彦根市城町1丁目4-12

金亀会報

祝 創立140周年



▲記念式典・祝事挨拶



▲松本紘氏による記念講演



▲祝賀会・記念演奏



さつ
い
あ
ご

金龜會會長 細江正人

金龜会員の皆様方におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素より彦根東高校同窓会金龜会の活動に対しまして、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、10月16日、全校生徒・教職員、同窓・関係者約1200名がひこね市文化プラザに会して創立1周年記念式典、記念講演を挙行する事ができました。記念式典は滋賀県知事、滋賀大学、滋賀県立大学両校長の式辞を柱に盛大かつ厳肅に執り行われ、続く記念講演には理化学研究所理事長（前京都大学総長）松本紘先生にご講演いただき、生徒たちからも次々と質問が出るなど有意義な行事でありました。懇親会も別掲のとおり大変和やかに開催され、これら催事の盛会は同窓生の一人として大変うれしい事でありました。

さて、この国の直面する課題の一つ、地方の人口減少です。滋賀県も人口の増える南部とその数を大きく超えて減少する湖東・湖北の地域があり、この地が同窓生の故郷です。

母校の地を故郷としてどのような提案をさせていただくと良いのかを模索しております。「産官学勤労言」が総力を結集してまちづくりに汗をかき故郷を守ろうとしておりますが、一朝一夕に解決するものではありません。基礎自治体として生き残るために、同窓の皆様のご指導をいただき、世界たく思つております。全国各地に、世界中に活躍されておられる同窓の皆さんにお願いです。故郷はどうあるべきかどうぞ、教ください。

また、ふるさと納税などは懐かしいゆかりの品などが届く組み立ては非利用して、故郷を少しでも元気づけてください。以前にも申し上げておりますが故郷の立派な家屋敷がやがて無人となることを予測しておられる方もおられる存じます。相続する人が地元に居ない「空き家」

金龜会員の皆様には、平素より本校の教育活動の推進に、ご理解とご協力を賜わり、誠にありがとうございます。さて、今年度本校は創立140周年を迎えて、10月16日に「ひこね市文化祭」で知事、県議会議長、星教頭長をはじめ多くの来賓をお招きし、卒業生、旧職員、教職員、在校生など約1200名の出席者を得て創立140周年記念式典を盛大に挙行いたしました。

式典では、祝辞、式辞の後、彦根東高校の校歌「開けよこの窓」とともに旧制彦根中学校の校歌「湖べの春にかざられて」さらには応援歌「ああ英傑が夢の跡」を出席者全員で合唱いたしました。

また、創立140周年の記念品と

A black and white portrait of Dr. Toshiyuki Yamamoto, a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a suit and tie.

ご
あ
い
さ
つ

滋賀県立彦根東高等学校長 青木靖士

滋賀県は東京日本橋二丁目7-1に新築中の赤木屋ビル（1階約44坪2階約42坪、屋上テラス約21坪）を一棟借りて、首都圏情報発信拠点の開設を進めています。琵琶湖をはじめとする豊かな自然や歴史文化、といった滋賀県の持つ魅力を体感できる場を設けることで、このエリニアにおける情報発信と、滋賀への誘引の役割を担うことを目的としています。また首都圏での人や情報との交流を通じて滋賀の個性を磨き、新たな価値創造につなげるとともに、県民自らが滋賀に一層誇りを持ち、地域力や豊かさを実感できる滋賀づくりにつなげることも目指しています。企画から設計運営業務までを一括して

昨年140周年の記念事業を、改めて募金をお願いする事もなくできたのは贊助会費のおかげです。終身会費をお支払い済みで、還暦を迎られた方々に贊助会費の振込依頼書を同封させていたたいております。後輩の活動援助に資するべく活用いたしました。振込用紙が同封されておりましたら、なにとぞどうぞよろしくお願ひいたします。

本年3月、66回卒業生を最後に68年の歴史を刻んだ本校定期制が閉鎖となり一挙の寂しさもありますが、「六十八年のあゆみ」という記念誌ができることは有意義でありました。同窓という、意識すれば確かに強い絆で結ばれた繋がりがあります。今一度、会の基盤強化と発展を願い、より一層のご指導ご鞭撻をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

受託したUDS㈱は滋賀県民の方々を交えたワークショップなどによりこれまでのアンテナショップにはない、新しい情報発信の場としての形を提案していきます。」と意気込みを示しています。どうぞご注目ください。

して金龜会から木造校舎特別教室の空調設備と、普通教室、階段教室をさせて28教室にプロジェクタ型電子黒板を設置いたしました。電子黒板はパソコンやタブレットなどの端末で作成した教材を黒板に投影し授業を行うシステムで、プロジェクタ型としては県立高校で初めての導入となりました。国が進めています教育の情報化を先取りしたもので、将来的に実施されるデジタル教科書や生徒一人一台のタブレット端末の導入を想定し設置いたしました。金龜会会員の皆様に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さらに、記念式典に統いて記念講演を実施し、理化学研究所理事長で前京都大学総長の松本紘先生から「科学力と日本」というテーマで御講

さて、その他の彦根東高校の状況について説明させていただきます。平成28年度の新入生は、全日制8クラス320名で、全校生徒は、全日制24クラス957名、定時制1クラス11名です。定時制は平成28年度末をもつて閉課程となります。学校（全日制）は、平成8年以来長らく続いていました2学期制を、年度から3学期制に改めました。4月の1年生宿泊オリエンテーションを皮切りに、6月の学園祭、8月には3年生進学合宿や1、2年生の東大・京大オーブンキャンパスなど、例年どおり進学支援を中心に実施しました。

今年度は、土曜授業（年間11回）を利用したりーダーシッププロジェクト（土曜の特別ブログラム）の中で、1年生は小人数のグループに

間に発行されました「校友会誌」のうち31冊をホームページに公開しました。トップページの「デジタル中料館」からご覧いただく事ができました。歴史的資料としての価値も高いものです。ぜひご活用ください。

今回の140周年では、多くの卒業生の皆様にお世話になるとともに、創立140周年実行委員会の方々には2年以上前から準備に取り組んでいたと記念事業実施に向け、ご尽力いたしました。深く感謝申し上げます。

をいたしました。108枚に及ぶ
詳細なプレゼンテーション資料をも
とに、科学の歴史からはじまり現代
の科学技術の進歩ご専門の宇宙大
陽光発電、さらには日本がこれかんじ
世界に対抗しノイバーリションを起す
していくためには何が必要かななど、
1時間半に渡り熱く語ついていたとき
在校生をはじめ参加者一同いたへし
感銘を受けました。この講演を聞か
た高校生の中から将来の日本を背負
つて立つ人材が出てくることを期待す
しております。

その後、彦根ビューホテルに移動し
て160名の出席者を得て祝賀会を行
盛大に開催いたしました。

また、今回の創立140周年を機
会に、本校史料館に残る彦根藩校
の貴重な資料を順次デジタル化し
公開していくことをいたしました。
今年度は、明治2年から昭和5年の

今後も彦根東高校の輝かしい伝統を受け継ぎながら、赤鬼魂を發揮し、文武両道・自主自律をさらに進め、学校の充実発展に努めてまいりたいと考えております。今後とも、金龜会会員の皆様には、お力添えを賜わりますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

部活動については今年度も多くの運動部・文化部が近畿大会や全国大会に出場しました。特に、文化部では新聞部が全国高等学校総合文化祭で9年連続最優秀賞を受賞し、全国高校新聞コンクールでも大東文化大学長賞を受賞しました。さらに朋学部は女子団体が7月の全国高校朋碁選手権大会で5位に輝きました。今春3月に行われます全国高校囲碁選抜大会にも出場する予定です。また、文芸部の部誌が全国文芸コンクールで全国2位にあたる優秀賞(ツ橋賞)を受賞しました。他にもS部、美術部などが来年度の全国総合文化祭宮城大会に出場する予定です。



恩師だより

永遠に輝け「赤鬼魂彦根東高校」

岡井 隆史



プロフィール

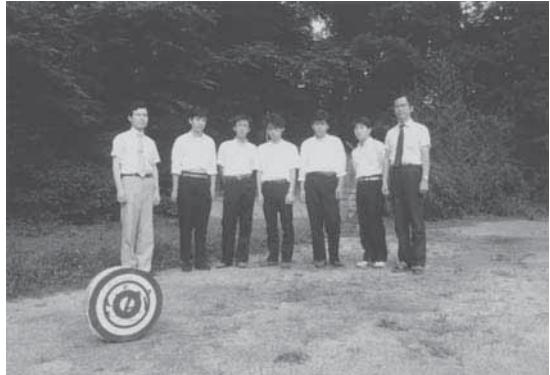
昭和十九年九月三十日生まれ、満州から引き揚げ、父の故郷「十津川村」に中学三年生一学期まで、二学期に大津市立南郷中学校に転校

昭和三十八年膳所高校を卒業し、滋賀大学教育学部中学課程社会科史学教室に入學

昭和四十二年立命館大学文学部史学科修士課程へ

昭和四十四年四月彦根西高校に赴任 昭和五十三年彦根東高校に転勤その後幾つかの学校等で勤務し、平成十七年三月に定年退職しました。

現在、農業法人の組合員として法人の手助けをしたり、自治会や檀家寺の世話係をしています。私の住んでいる東近江市林田町は、自然環境に恵まれたのどかな集落（町）です。



教員としてスタート（伝統誇る彦根ガラ）
私が最初に赴任した学校は、「彦根西高校」でした。今から約五十年も前のことです。今思うと、本当に恵まれた環境でスタートさせて頂いたと思っています。日本は、すさまじい勢いで経済成長を遂げ

ていました。が、まだマイカー時代には入っていなかったと思います。そんな時代に文化の匂い漂う歴史ある彦根で社会人としての第一歩を踏み出しました。その頃、「彦根西高校は旧制女学校の伝統を、そして彦根東高校が旧制中学校の伝統を受け継いでいる」と先輩の

湖東に燐然と輝く

彦根東高等学校

彦根東高に赴任した頃、私は日々「深呼吸」をし、心静めて校門をくぐっていました。どの学校にもそれぞれ校風があり、独特の文化があります。そのことを強烈に感じさせられたのが東高です。生徒達の自覚の高さに驚かされました。整然とした授業、そして放課後の部活動・生徒会活動等の主体的な取り組みに感激を覚え、心地良い時間の流れを感じていました。さすが東高の生徒はすごいと実感させられました。これぞ彦根藩校「弘道館の精神」を受け継ぐ現代版「赤鬼魂」と受け止めていました。私としては、この生徒達一人一人の資質を伸ばすよう、伸びてくれるよう必死で取り組まねばと思ったのです。教員として、東高の先生方からいろいろのことを学ばせて頂きながら、なんとか信頼さ



私の青春時代を振り返つて
私は、糺余曲折はありましたが友人の影響もあり滋賀大学教育学部に進学しました。その頃の私の生活は、昼間は講義を受け、夕方からは家庭教師をするという日々でした。そんな生活中、二回生の夏に恩師から『私の書庫を整理してくださいか』との依頼がありました。その時に大学の先生の奥深さを実感させられました。ものすごい蔵書でした。それに刺激を受けて立命館大学文学部史学科修士課程に進みました。そして昭和四十四年に教職の道に入りました。そして昭和四十四年四月に教職の道に入りました。



最後になりましたが、東高同窓生の皆さん、一人一人が健康を第一に、今の自分の立ち位置がすなわち家庭や職場それに地域の方々と、心通う温かい・潤いある人間関係で結ばれ、一回限りの人生を、悔いのない人生を展開されることを心より祈念しています。

卒業生へ一言（赤鬼魂の誇り）
時代は変わつても、どんな時代であつても、いつも人生に困難はつきものだと思います。なかなか思い通りには行かないのが現代だと思います。そうであつても、生徒も多少なりとも複雑な気持ちを持っていたと思います。そのことはともかく生徒一人一人は、どの生徒も十分な伸びしろを持つた素晴らしい生徒達でした。『東高の生徒は、社会に出ると必ず伸びる。』とよく私に言つて下さった先輩の先生がいました。その一言は今もって脳裏に焼き付いています。

私は、糺余曲折はありましたが友人の影響もあり滋賀大学教育学部に進学しました。その頃の私の生活は、昼間は講義を受け、夕方からは家庭教師をするという日々でした。そんな生活中、二回生の夏に恩師から『私の書庫を整理してくださいか』との依頼がありました。その時に大学の先生の奥深さを実感させられました。ものすごい蔵書でした。それに刺激を受けて立命館大学文学部史学科修士課程に進みました。そして昭和四十四年に教職の道に入りました。そして昭和四十四年四月に教職の道に入りました。

彦根東高校創立 140周年記念事業

金龜会副会長
辻 博史(東17)

平成28年10月16日(日)の記念事業に向け実行委員会が平成26年4月28日に、また同年8月28日には学校内に準備委員会がそれぞれ設置され、2年の月日をかけて、準備が進められました。

記念事業当日は、好天に恵まれた中、次の流れで様々な事業が繰り広げられました。

(1) 学校案内(10時30分~11時15分)

生徒の案内で、耐震化工事の完了した校舎を見学(約60名参加)

(2) 記念式典(13時~13時30分・ひこね市文化プラザグランドホール)

開式の辞・ファンファーレ・来賓登壇・物故者への黙祷・国歌斉唱・校歌斉唱・学校長式辞・実行委員長挨拶・来賓祝辞(知事・県議会議長・県教育長)・

来賓紹介・祝電披露・記念事業目録贈呈・生徒代表挨拶・旧校歌紹介・応援歌斉唱・閉式の辞

(3) 記念講演(14時~15時30分・同・約1200名参加)

「科学力と日本」
理化学研究所理事長 松本紘

氏
(4) 祝賀会(17時30分~20時・彦根ビューホテルレイクビューホール・約160名参加)

開会宣言・校歌斉唱・実行委員長挨拶・学校長挨拶・来賓祝辞(川端達夫衆議院副議長)・

記念演奏・歓談・スライド上映・

創立140周年記念講演

教頭 吉居 増行

記念式典に統一して、理化学研究所理事長、前京都大学総長の

記念事業報告・謝辞・応援歌斉唱・エール・閉会挨拶

なお、140周年記念事業として、金龜会から①プロジェクト型電子黒板、②特別教室空調

設備助成金として合計1313万円余を基金から支出させていた

ときました。また、式典・記念講演の模様を新聞部が「速報版・キマグレ(1447・1448号)」として発行し、祝賀会の参加者に即日配布して、全

国高校新聞年間紙面審査最優秀賞連続受賞の実績に打ちされた実力を發揮されました。

祝賀会の司会は中川晴美さん(東33)が担当され、記念演奏はフルートの吉岡由美さん(東37)と Chernyakova の光永秀子さんに行つていただきました。

今回の記念事業参加申込は、昨年の金龜会報において告知させていただき、詳細案内希望の方に対しても案内を差し上げると

いう方法を採用させていただきました。2万人を超える卒業生全員にご案内を差し上げるには通信費が莫大な額となるため、ご理解を賜りたいと存じます。

最後に、若者(生徒)に「四

ガク」を身につけることをおすすめになりご講演を縮めくらました。四ガクとは「学力、額力、頸力、樂力」の4つで、以下のようなことを意味しております。

頸力=知識、學問を身につける

力、額力=情、思いやりを司る前頭葉を鍛える

力、樂力=人間力。何をするにも、仕事でも楽しんとするべき

松本先生も楽しみながら、研

究、仕事に打ち込んでできたとおっしゃっていました。

松本紘氏に、「科学力と日本」という演題で記念講演いただきました。先生のご専門のお話しもまじえながら、あまり科学について知らない者にもわかりやすくお話し下さいました。

まず、サイエンス(科学)と何かというお話しから始められましたが、ジュエルベルヌや、浦島太郎、アダムとイブのお話など、様々な例を引き合いに出しながら、ご説明いただきました。

した。その後、先生が現在取り組んでおられる最先端の研究である、宇宙太陽光発電についても、ご紹介いただきました。

今年の母(母の日)になつてしまつて、『昔は『必要が発明の母』だつたが、現在は『発明が必要の母』になつてしまつて』など、現代社会の問題点をご指摘いただきながら、私達の取組姿勢についてご助言いただきました。

など、現代社会の問題点をご指摘いただきながら、私達の取組姿勢についてご助言いただきました。



金龜会総会

平成28年度金龜会総会は5月22日(日)、木造校舎棟の多目的ホールを使用して開催されました。当日は晴天に恵まれ、全国から119名の同窓生等が参加され、総会では創立140周年記念事業実行委員会の報告の後、平成27年度の事業報告・会計決算報告・平成28年度事業計画案・会計予算案、そして金龜会理事の改選が全会一致で承認されました。

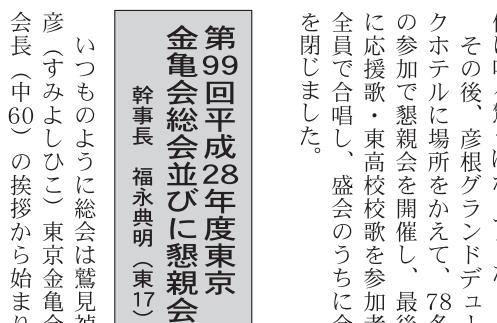
記念講演では、「暮しの手帖」



記念講演

「懶しいコト」のつくり方

澤田 康彦 氏(東24)



第99回平成28年度東京 金龜会総会並びに懇親会

幹事長 福永典明(東17)

彦(すみよしひこ)東京金龜会
長(中60)の挨拶から始まり

いつものよう、総会は驚見頃終了いたしました。続いて、前彦根城博物館館長で井伊家第十八代当主井伊直岳様に「NHK 大河ドラマおんな城主 井伊直虎とは」と題して講演していただきました。まずは遠江の武士であつた井伊家初代にまつわる

講演後、生徒から松本先生の子どもの頃のことや、日本の科学について素朴な質問がでましたが、丁寧にわかりやすくお答えいただきました。

最後に、実行委員会副委員長の植田洋一氏が謝辞を述べられ、生徒代表が花束を贈呈し会場からは割れんばかりの拍手がわきおこりました。すばらしい講演でした。

伝説のお話から始まりました。そして中世の井伊家から遠江国その守護として今川家につかえ、そこからの井伊家の危機におんな城主井伊直虎の登場。さらに井伊家の中興の祖といわれ彦根藩初代藩主井伊直政との関係、直虎らの尽力によつて井伊家が存続したことなどを大画面によるパワー・ポイントを使って、分かりやすく講演していただきました。「貴重な話が聞けました。大河ドラマが楽しみですね。」と皆さんには大盛況でした。定時副校長の青山吉伸様（東28）の乾杯の音頭で始まつた懇親会では有り余るほどの料理と飲み放題で、また十卓のテーブル上には郷土の味「ふな寿司」「鮎の佃煮」などをつけながら、懐かしい出来事やら近況の話に花が咲いておりました。途中には琵琶湖をテーマにしたH28春に地元で公開されました（東京公演はH29年の予定）映画『マザーリイク』の瀬木直貴監督とアドバイザーの植山泰子様（東37）から予告編を観ながら映画を紹介していただきました。年の違いや卒業年度を越えて母校と言う共通のつながりの中で、電話が弾みますのも東京金龜会ならではの光景です。恒例の抽選会も「近江米」「近江牛カレー」など全員に



もれなくお持ち帰りいただき、中には会費以上の賞品をゲットした方もおられて大喜びでした。最後に彦根からの出席者中村直樹様（東20）の音頭で彦中校歌、彦根東校校歌、応援歌を全員で歌い、集合写真を撮影、「また来年会いましょう」と声を掛け合い、午前11時から始まりました。平成29年は東京金龜会創立100年。その特別講演として、

ジャーナリストの田原総一朗さん（東1）と衆議院議員で元環境大臣の細野豪志さん（東38）による対談『どうなる日本、どうする日本（仮題）』や東京芸大卒でソプラノ歌手の田島茂代さん（東34）による『オペラと懐かしの歌のミニコンサート』など、見逃せない内容を企画いたしました。そして総会当日の参加者の皆様には100周年記念誌と記念DVD、郷土のお土産をお持ち帰りいただきます。

さらに7月22日には『彦根伊賀の上屋敷、中屋敷、下屋敷、豪徳寺を訪ねて』と題して記念ツアーを実施いたします。他では体験できない盛りだくさんの東京金龜会100周年記念事業、関東在住の方はもちろんのこと、金龜会会員すべての方々の参加を大歓迎です。

是非皆様こぞつてご参加くださいますよう、これは絶対見逃せませんよ。

7月8日（土）16時30分グランドアーチ半蔵門にて開催です。一同東京でお待ち致しております。

お問い合わせは幹事長福永まで。090-3346-2888またはEメールアドレス noriakif@mx4.mesh.ne.jp

5月に「瀬田川ぐるりとさんぽ道と石山寺」と銘打つて石山寺周辺を、11月には彦根城を散策しました。いずれの回も200名を越える多数の方にご参加をいたさり、盛況のうちに開催することができました。「歴史街道」ではこれまで28回にわたって開催しており、関西の名だたる名勝・歴史街道をほぼ廻り尽くした感があります。

そのため、幹事様には、これまでの開催場所を重ならないようにするため開催場所を選定するにもご苦労いただいているところです。こういったこともあります。この開催となりました。

また、「ゴルフ同好会」では、会員の皆様のご協力のもと、年2回のコンペを開催しております。昨年は、5月と10月に、いずれも瀬田ゴルフコースにおいてコンペを開催しました。

さらに、昨年6月11日には、ホテル阪神において、関西金龜会総会を開催いたしました。東近江市長の小椋正清さん（東18）をお招きして、ちょうど時世を騒がせていた前都知事の公用車の不正使用問題に言及しながら、永源寺の歴史・東近江市の魅力について幅広くご講演いたしました。次回の総会は、1年おいて来年6月での開催を予定しております。会員の皆様には奮つてご参加いただきますようお願い致します。

関西金龜会では、今後も学年幹事会を中心に各活動内容を検討し、より多くの会員の皆様に楽しんでご参加いただけるよう、活動を続けていきたいと考えております。

「歩こう会」では、昨年には

関 西 金 龜 会

事務局長 藤井長弘（東27）

関西金龜会では、「歴史街道歩こう会」と「ゴルフ同好会」の2部会を設け、各部会の幹事様にお世話を戴き、常日頃から活動しております。

「歩こう会」では、昨年には

平成28年 東海金龜会報告

事務局長 孫工昇嗣（東11）

藤達雄さん（東11）が優勝されました。次回は5月に開かれる予定です。

11月13日第4回「歴史探訪ウォーキング」が、名古屋市緑区の歴史的な町並みが残る「鳴海・有松地区で、18名の参加を得て開かれました。鳴海は東海道の40番目の宿場町で、旅籠68軒など総家数847軒もあつた大きな宿場でした。

有松は有松絞りで名を知られていますが、江戸時代九州豊後の人々から染を習い、手ぬぐいなどを作つて旅人に売り出した

ゴルフ大会は、10月30日快晴の中、富士可児ゴルフ織部コースで開催されました。

会員の家族など

のオープン参加を含め14人が参加し、加



これが始まりと言われています。有松の町屋建築は、防火に気を使つた総瓦葺き、漆喰造り、卯建（うだつ）などを特徴とした建物が残っています。今後とも東海金龜会の活動に対し、ご協力頂きますようお願ひいたします。

案内で酒蔵を見学、歴史と伝統、現代と革新が調和する生物・化合写真を撮影、岡村博之社長の大星で有名な酒蔵「岡村本家」に到着、蔵の正面で2枚目の集合写真を撮影。

生）まで移動、地元の食材をふんだんに使つたご馳走で身体と頭に栄養補給、もちろん会員間交流もより一層深めました。再びバスで豊郷町に移動、「金龜」。

「試飲で二次会」が開宴しました。玄米で造つた清酒や地元のお米を原料に醸造した芳醇な限定品も美味しくいただきました。もちろん家族への土産も忘れません。

学の空間を堪能しました。見学を終えると放課後のお楽しみ、「試飲で二次会」が開宴しました。今年も定宿のデューカホテルに集まつた。諦観したようなお顔ばかり。もう欲も得られないらしい。

ほんもの的人生の始まりがこれまであると友は言つたが、これは至言とうなづく。それでも校歌や応援歌を口にすると、不思議に血はさわぐのです。

今年も定宿のデューカホテルに集まつた。諦観したようなお顔ばかり。もう欲も得られないらしい。

見参！ 七人の侍たち

高木 徳本（中55）

来年の再会を固い握手にこめて散会。

平成28年5月18日

東1回卒同期会開催

速水 正昭（東1）

東1回卒の同期会を平成28年9月25日（日曜日）に母校所在地彦根のキヤツスルリゾート&スパで2年振りに開催いたしました。

同窓生の半分は既に82歳を迎えており、健康の問題での欠席者が増えている事から今後母校を訪ねる機会は少なくなるだろうと考え、母校の見学会を事前に行いました。

我々が学んだ校舎ではあります。が、御座所や旧門衛所の懐かしい建物もあり、よく叱られた当時の事（ピントはまだ当り前の時代）を思い出し、暫し旧懐の念に浸りました。休日にも拘わらず態々出勤の上痒い所に手が届くように案内していただき横田事務長先生に感謝を申し上げると共に、参加者一同大変喜んでいた事を付記しております。

本会は物故者への黙祷から始め、校歌と応援歌を会場に流しながら袴田君の乾杯の音頭よりたっぷり2時間半懇親を重ねました。実に充実した懇親会でした。最後は北村君のエールで会を締めました。加えて同会場別室で2次会も開き、更に懇親を深め、16時半名残を惜しみつつ散会いたしました。

詳しいご案内と出欠確認を4月中旬に送付します。
多くの方の参加をお待ちしております。
（準備委員岡野正義）



東高校4回 (昭和31年3月卒) 同窓会開催案内

標記の同窓会を傘寿を記念して、本年6月8日（木）に「マリアージュ彦根」に於いて開催いたします。

詳細のご案内と出欠確認を4月中旬に送付します。
多くの方の参加をお待ちしております。
（準備委員岡野正義）

寄稿の予約を是非お願いします。字数は14字×28行程度をお願いします。

彦根東第6回卒・喜寿記念同窓会報告

小澤 弘(東6)



昭和33年卒業生は、77歳(数え年)の喜寿を迎え、一昨年の5月20日(水)喜寿記念同窓会と称し開催致しました。参加者は116名、339名に連絡し、55名の方が他界され

ておられ、企画運営につきましてはインターネットによるメール連絡の形を取り、幹事代行を東28回卒の後輩である上田健一郎氏経営の千成亭笑顔創造事業部に全面的にお願いしました。

北は北海道、南は九州から駆け付けていただき盛大な会になりました。会場は彦根駅東口のマリアージュ彦根玉姫殿に於いて彦根地元10名の世話人により実行の運びとなりました。

若き青春時代、高3の学生に戻り約3時間過ごし、喜寿のスナップ写真をCDに取り入れたものをお土産に各自購入しました。2次会のカラオケ専用の部屋に1時間程過ごし、その後6時ごろからホテル専用の車にて会場から3次会へと移動、袋町のクラブ浜の2階で9時まで親睦の宴を尽くし、遠方の方は

ホテルに宿泊、次の3年後には80歳の傘寿を目指し健康を保ちお互いに逢える日を楽しみに再会を約束しました。

小川洵(まこと)君の司会で始まり、物故者追悼、世話人代表小澤弘の挨拶、九州からこられました三谷雄行君の乾杯のご発声により宴会に移り当時の高

校生時代の卒業アルバムから大型スクリーンに各組ごとに映しだされ、バック音楽に合わせつつ、思い出のシーンに浸り満喫しました。

当日は天候にも恵まれて早くから仲間が到着し、受付を済ませた旧友が集まり、お互いの無事を確認するなど、ロビーいつぱいに歓談の輪が広がり、記念撮影の始まる頃には宴たけなわと言った雰囲気となりました。

祝宴はいつものように澤龍洋君の台本なしの迷走で進行し、開会前には奥村美智代さんが物故者42名を読み上げ、黙祷、次に初代世話役の尾崎紘一君の開会の辞と続き、校歌齊唱。

超えた頃に集まろうと約束していました。今回の会場内で参加者は奇しくも二年前に読んで貰いました。

当日は天候にも恵まれて早くから仲間が到着し、受付を済ませた旧友が集まり、お互いの無事を確認するなど、ロビーいつぱいに歓談の輪が広がり、記念撮影の始まる頃には宴たけなわと言った雰囲気となりました。

祝宴はいつものように澤龍洋君の台本なしの迷走で進行し、開会前には奥村美智代さんが物故者42名を読み上げ、黙祷、次に初代世話役の尾崎紘一君の開会の辞と続き、校歌齊唱。

東高16期卒業(イースト16)の卒業50周年の記念同窓会を開催します。初秋の彦根と懐かしい再会を楽しみに今から出席準備とスケジュール調整をお願いします。

第12回卒業同窓会 古希を祝う同窓の集い

中北慎治(東12)

野山が新緑に染まる平成28年5月24日、恒例の同窓会会場のマリアージュ彦根に同級生125名(男性82名、女性43名)が集まり、目出度く古希を迎えた祝宴を開催しました。

杜甫の漢詩「曲江」の中に「人生七十古來稀なり」とあります。我が学年は2年前に開催した「卒業50周年記念同窓会」の時に、無事に満年齢で70歳を

代表幹事の挨拶では中北慎治が今回の開催に到る経過とこの祝宴を参加者全員が心ゆくまで楽しんでくださいと述べました。また、彦根東高校の創立140周年の記念の節目に当たりましたので、母校へ益々の隆盛に祝意を表して寄付をさせていただきました。これを報告しました。

約3時間の友との語らいに話題は尽きませんでしたが、あつと

いう間に閉宴の時間となり、全員が輪になつて手を繋ぎ青春讃歌の合唱です。外海芳子さんのピアノ伴奏で、高校三年生・青い山脈・琵琶湖周航歌等を歌つ

て青春時代を回顧しました。最後に、次回幹事の寺嶋大和君から閉会の挨拶と次の開催予定が告げられて全員で再会を期しました。引き続き2次会も別

事前に幹事の皆さんと相談し、たようすに同窓会の内容は懇親、貴い、全員で乾杯しました。

北村勝・宮元直美

(発起人代表木村泰造/事務局)



■開催日時
2017年10月13日(金)
13時開会(12時受付開始)

■会場
(米原市磯1477-2)
エクシブ琵琶湖

当日はJR米原駅から送迎専用バスを運行します。

■お知らせ
卒業50周年記念に

母校への寄付も計画しています。

詳しく述べます。

50周年記念同窓会のお知らせをお送りします。

寄稿を希望する学年は遅くとも11月末までに、年明けに同窓会をもたれる場合には



春の全国選抜対白百合戦

今年度、高等学校等芸術文化活動ジャンプアッププロジェクトが始まり、本校囲碁部を含む県内5つの文化部が、伝校・拠点校として、県から指定を受けました。このプロジェクトは、全国大会での上位入賞を目標として、専門家を招いて強化するための予算が付くものであり、県内初の「文化部の強化指定クラブ」となります。東高初の強化指定クラブとなる本校囲碁部の活動について、金龜会員の皆様にご報告致します。

本校囲碁部は、昭和56年に囲碁サークルとして創設し、62年に同好会に昇格、63年に部に昇格しました。現在、部員は、男子21名、女子11名の計32名で、被服室をお借りして活動しています。主な実績として、夏の文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会で、男子が20回、女子が16回(いずれも県内最多)出場し、男子が3回、女子が6回、全国ベスト8以上に入賞しています。また、近畿大会では、21回の3位以内入賞を果たしており、これは灘高校の25回に次いで2番目に多く、洛南高校の16回を

彦根東高校囲碁部が県の強化クラブに指定

囲碁部 顧問 坂本秀誠(東43)

上回っています。近年は、近畿・全国レベルでの女子部員の活躍が目覚ましく、平成27年春の選抜大会で全国準優勝を果たし、夏の選手権では、4年連続全国ベスト8以上に入賞しています。他に、男子は9年連続、女子は8年連続で滋賀県知事奨励賞を受賞しています。

本校囲碁部の大きな特徴として、入部する生徒の半数が初心者にも関わらず、全国大会で上位入賞を

は、礼儀作法を最も重視しています。さらに、日本棋院滋賀県支部連合会と協力しながら、大会運営のボランティアやこども囲碁教室などの囲碁普及活動にも積極的に取り組んでいます。こういった取組を通じて、挨拶ができるようになる、感謝の気持ちが芽生える、といった効果をもたらしています。

囲碁は、思考力、大局観が育まれ、いわゆる地頭が鍛えられます。勉学の面でもよい効果を発揮しています。本校囲碁部のもう一つの大きな特徴として、練習は短時間集中型であることがあげられます。学生の本分である学習を orbsかにすることなく、文武両道を実践している生徒が多く、進路においても、部活動で培った集

中力で粘りを發揮しています。レギュラーとして活躍した選手は、東京大学(理科I類)、慶應義塾大学(法学部政治学科)、滋賀医科大学(医学部医学科)、京都大学(工学部工業化学科)などの難関大学に現役で合格しています。他にも、本校囲碁部で活躍した生徒が、卒業後に大学でも囲碁を続けるなど、卒業後も囲碁を続けたり、昨年の全日本大学囲碁選手権の出場者の約6%を彦根東高校囲碁部の卒業生が占めるという状況になりました。

彦根東高校囲碁部の次の目標は、「全国制覇」です。赤鬼は、魂の精神で、「頭脳の甲子園」に臨みます。今後も金龜会員の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。



NHKおうみ発610より

彦根東が全国2位

NHKおうみ発610より

結果としていることがあげられます。全国の囲碁強豪校は、灘、開成、麻布、筑駒など、東大合格者が多数輩出するような中高一貫の進学校がほとんどです。小頃に囲碁を覚え、高校入学段階で既に全国レベルの高段者という例が多く、本校囲碁部のように、初心者から育成して全国で活躍する高校は、他に例を見ません。高校の部活動という、実質2年ちょっとという限られた時間で、全国トップレベルに達するということは特筆すべきことであります。全国的にも注目されています。本校囲碁部の

練習をし、土日は数多くの対外試合を計画し、運動部以上に遠征していることも大きな特徴です。多くの対外試合で場数を踏むことによって、負けから課題を見つけ、勝ちから自信を得て、各自が次目標を適切に設定することができます。

また、本校囲碁部は、勝利至上主義に陥ることなく、高い競技力を身につけるためには優れた人間性が必要であるという考え方に基づき、囲碁を通じて、規範意識の向上、人格形成を目指しています。

彦根東高校囲碁部の次回の目標は、「全国制覇」です。赤鬼は、魂の精神で、「頭脳の甲子園」に臨みます。今後も金龜会員の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

●日時	平成29年5月28日(日)
(受付)	12時45分
彦根・湖東・湖北支部総会	13時15分
総会	14時
記念講演会	15時

平成29年度

金 龜 会 総 会

彦根・湖東・湖北支部総会

小田全宏氏(東25)

●場所	彦根東高校 木造校舎多目的ホール
講師	株式会社ルネッサンス・ユニバーシティ代表取締役 小田全宏氏(東25)
演題	「夢を実現する脳の使い方」



17時より

懇親会

(彦根キャッスルリゾート&スパ
会費 七千円(当日徴収)